

論文審査の要旨

本研究は、カンボジアの初等教育から後期中等教育にかけての学校段階を対象に、キャリア教育の視点から教育制度の特色を制度的・統計的に考察するとともに、これまでほとんど実証的データがなかった児童・生徒の進路形成意識の実態の解明を目的に、文献資料分析法と実証的方法を主とした研究である。教育制度の資料分析では、1980年以後の歴史と統計的分析により就学率や進学率の向上を明らかにした。同国では2010年代に入っても、小学校における留年など、各学校段階での途中退学率は大きい。児童・生徒らにとって生活が豊かになる仕事に就くことが重要であることから、そのための有効な教育理論として、日本と米国のキャリア教育理論に注目し、進路選択の理論的枠組みを実証的調査に用いている。家庭の社会的・文化的背景、児童・生徒の学習活動や自己評価、進学希望、職業希望を中心とした項目を含む質問紙調査により、小学生、中学生、高校生からデータを収集し、進路形成の要因の統計的分析と考察を行っている。

論文構成は次の通り。第1章は、初等教育制度を中心に論じ、カンボジア全体の教育像を明らかにしている。第2章は、初等教育の課題について都市部のプノンペンと農村部のカンダル州の地域間比較を行っている。第3章は前期中等教育について、第4章は後期中等教育について同様の検討と考察を行っている。第2章から第4章では、小・中・高校についての制度的現状と課題を社会統計データや政策文書から明らかにする一方、進路形成に関する実証的データを基に、小学校では地域間比較の検討と考察を、中学校では小学校との比較を、高校では中学校と比較し、生徒の進路意識の形成に影響を及ぼす要因分析も行っている。第5章では、初等・中等教育の教員問題を論じる。学校教育の質的向上にとって教員の問題は極めて重要であり、その教員養成政策について、ワールドバンクの実証的レポートからその現状と課題を明らかにした。最後の第6章では、小学校から高校にいたる児童・生徒の進路形成の実態と制度的考察に基づき、カンボジアにおけるキャリア教育の全体像をまとめ、今後のカンボジア教育の課題を明らかにしている。

初等教育では、①教育支出の増大の必要、②教育のための教員人材育成、③授業時間や教材の不足やICT環境の未整備、④クメール語の完全習得の必要性、⑤カンボジアのカリキュラムに特徴的な「ライフスキル」の課題とともに、⑥地域の産業構成とのギャップとスキルのミスマッチ問題を論じている。前期中等教育の課題としては、①進路指導の保障、②家庭の文化的背景の相違を超えた教育の公共サービスの充実をあげている。後期中等教育の課題としては、①国家試験、②教員の問題、③カリキュラムの多様性の必要が論じられている。教員養成問題については、給与の低さと低い社会的評価から、カンボジアの教職は魅力的な職業とはいえない現状にある。

最後に、進路形成の共通課題として、途中退学、国家試験制度、ICT環境の整備が論じられ、今後の研究課題として、ICT教育とLife skillプログラムの重要性、職業訓練校の研究、グローバル化、高校卒業後の高等教育の課題を論じている。なお、予備論文審査時において、査読機関のある学会誌等での原著掲載について予定であった3本は、その後予定通りに掲載され、掲載済の1本と合わせて計4本の査読付き論文となり、申請要件は充足している。

以上のように、本論文はカンボジアのキャリア教育について、制度的、統計的で実証的な根拠に基づく優秀な体系的研究であり、比較教育の分野において多くの貴重な考察と資料を提供する研究となっていることから、博士（人間文化学）の学位を授与するに相応しいものと認める。